

えんちょう通信

No.111

令和5年11月20日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤一男

「こんなに大事にされているんだな・・・」

11月10日(金)午前9時30分から、清水小学校と清水幼稚園との合同避難訓練が行われました。

今回は、「大雨により松川氾濫危険情報が発表され、清水支所学区に避難指示がだされた」という想定です。

まず小学校の校庭へ避難し、校長先生と担当の先生からお話をいただきました。

その後、第2避難場所の清水中学校へ歩いて避難することを想定し、小学校の正門を出て、飯坂街道を佐藤工業のところまで歩き、校庭に戻ってきました。

幼稚園の子どもたちのわきには6年生がびったりとついて、手を取って歩いてくれました。自分の命だけでなく、周りの人の命も大切に考えられる小学校の子どもたちの姿を見ていて、胸が熱くなってしまいました。

こんなふうにしてもらったら、4歳、5歳の小さな子どもたちだって、「僕(私)は、こんなに大事にされているんだな・・・。」と思ったに違いありません。そして「こんなに大事にされているんだから、自分も頑張らなくちゃ。」と思うようになっていくのかもしれない。

また同じ日のお昼には、「給食試食会」が行われました。年少組と年長組みんなで清水小学校の家庭科室へ行って、給食をいただきました。

この日のメニューは、かぼちゃのグラタンとゆでたブロッコリー、野菜たっぷりのコンソメスープ。それに米粉パンと牛乳です。野菜のスープには、ハートの形やうさぎの形に切った人参が入っていて、子どもたちはその人参を大事そうにスプーンですくって食べていました。

わたしは、子どもたちより一足先に幼稚園に戻り、子たちが帰ってくるのを待っていました。しばらくすると、子どもたちが大喜びで帰ってきました。

「めっちゃ おいしかった!」「給食って、やっぱりおいしいね。」

「カボチャのグラタン おかわりしたよ!」

帰りには、給食室の先生方から「何回でも来てくださいね。」と声をかけていただいたそうです。

こんなふうに優しく手を引いてもらったり、おいしいものを用意して迎えてもらったりしたら、誰だってうれしくなります。そういう経験は、その子の中にずっと残り、その子の支えになっていくと思います。

そうして子どもたちは、小学校に入学するのを心待ちにするようになっていくのだと思います。

